

*注：昭和59年10月、久保田さんが書いた文から抜粋・編集

(略) 養父母は明治31年4月7日、本村に入地籍。開拓は未開地の笹を刈り、木の枝で三角の小屋を建て、狐や熊がいるので、小用のために外に出る時も交替で見張りをし、夜も足支度を解かず、ごろ寝をしていたそうです。たまの入浴も4斗樽に沸かしたお湯を入れて入り、毎朝3時に起床して開墾に精出しました。その年は、春以来雨が降らず、毎日鍬1本で開墾して、麦・馬鈴薯を蒔き付け、9月に少々実入りの頃、大雨が幾日も降り続き、洪水となり、街からの助け舟で救助され、命拾いをしたと話してくれました。(略)